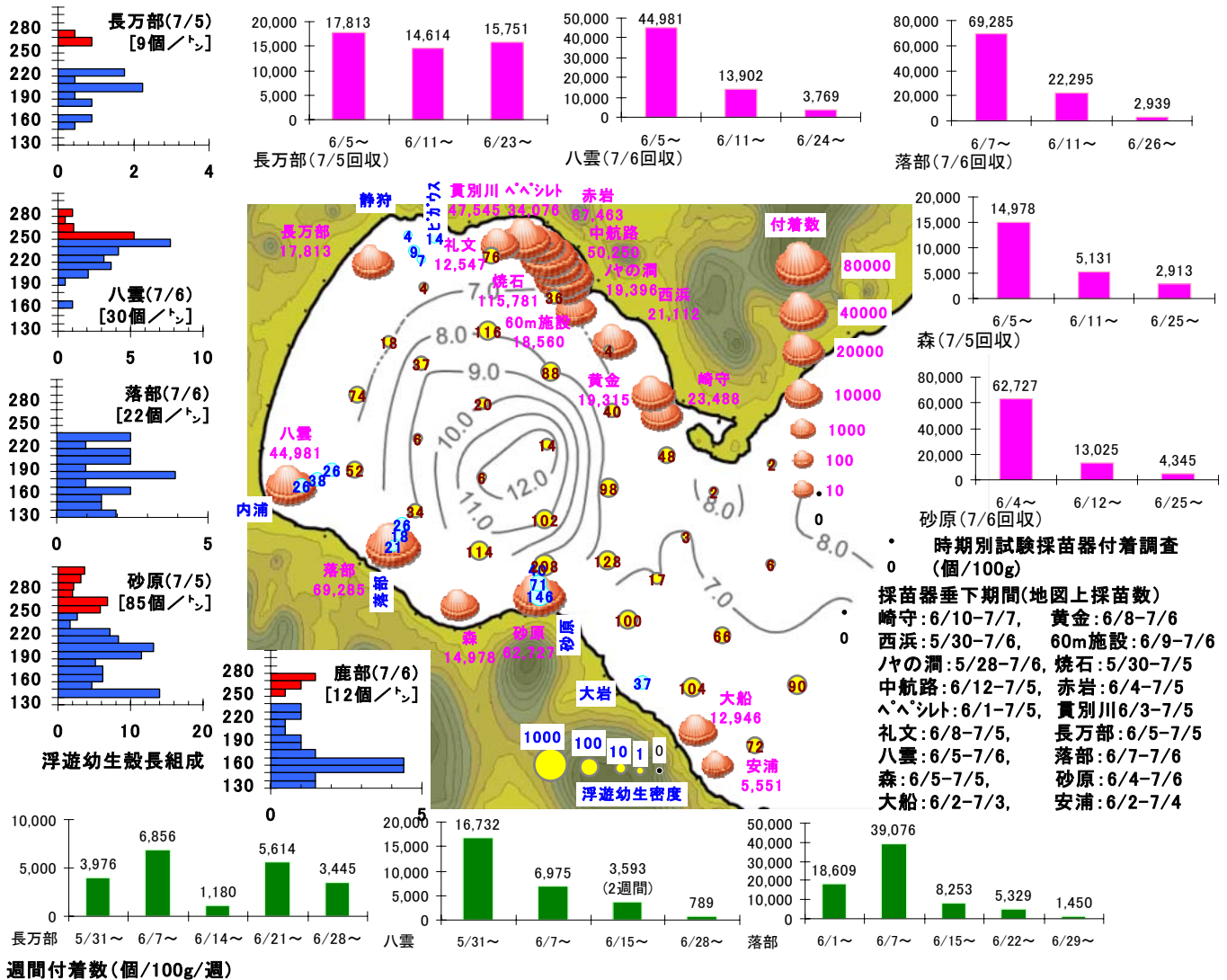


# 第10回噴火湾ホタテガイ情報(2010年)

発行日：平成22年7月12日

函館水産試験場・栽培水産試験場・釧路水産試験場  
胆振・渡島北部・渡島中部地区水産技術普及指導所

図1. 浮遊幼生・付着状況分布状況(7/5-7/7) ・丸の大きさと添付数字は幼生密度(個/ト)、水色●は各指導所調査、黄色●は函館水試金星丸調査、貝の大きさと添付数字(ピンク字)は付着数(個/100g)、灰色曲線と数字は水深20mにおける等水温線と水温



## 概要

7月5～7日に各地区指導所による浮遊幼生・付着状況調査と函館水試金星丸による浮遊幼生・海洋環境調査が行われました。噴火湾全湾で浮遊幼生の密度が低く(2～208 個/ト)、浮遊幼生の出現は終盤です。付着数は多く、胆振側では12,547～115,781 個/100g、渡島側では14,978～69,285 個/100gです。渡島側では6月初旬に投入した採苗器への付着が多い結果となっています。イガイ等の付着も多い状況です。各地区指導所の採苗情報に種苗のサイズやイガイ等の付着情報が載っています。それらを参考にして、採苗作業を実施してください。

図1のように、噴火湾の水深20mでは同心円状の等水温線がみられ、時計回りの渦が発達している事を示しています。湾内水は安定していますが、次ページ図2のとおり、水温・塩分が急激に変化する躍層深度は浅く、ホタテの垂下水深と重なっています。躍層は環境変動が激しく、振動も伝えやすい性質を持っていますので、できるだけ躍層深度を避けてホタテを垂下してください。

7月12日の週は、胆振でフルイ選別試験、渡島では週交換試験採苗器調査が予定されています。函館水試金星丸による浮遊幼生調査は今回で終了、環境調査は9月に実施予定です。9月には環境調査結果を配信予定です。

連絡先：函館水試 調査研究部 管理増殖グループ 馬場・渡野邊・金森

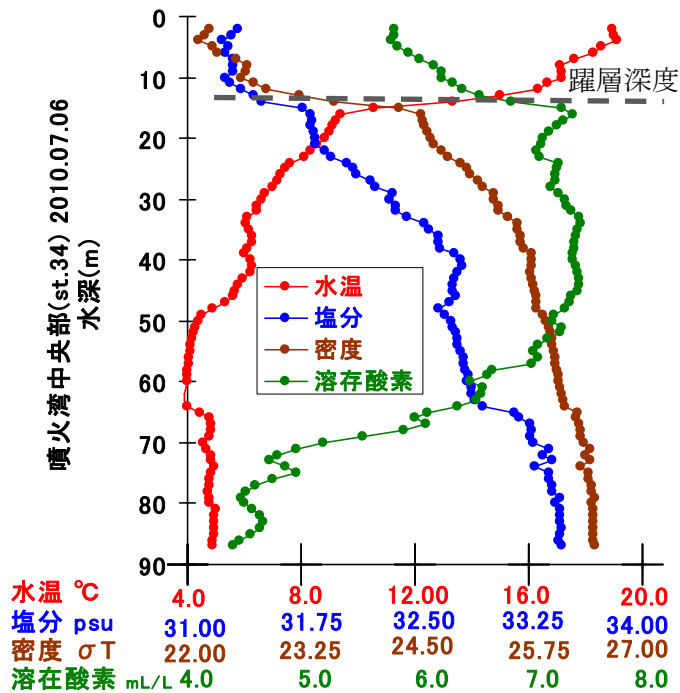


図2 最深地点(st34)における水温・塩分・密度・溶存酸素の鉛直変化(平成22年7月5日)

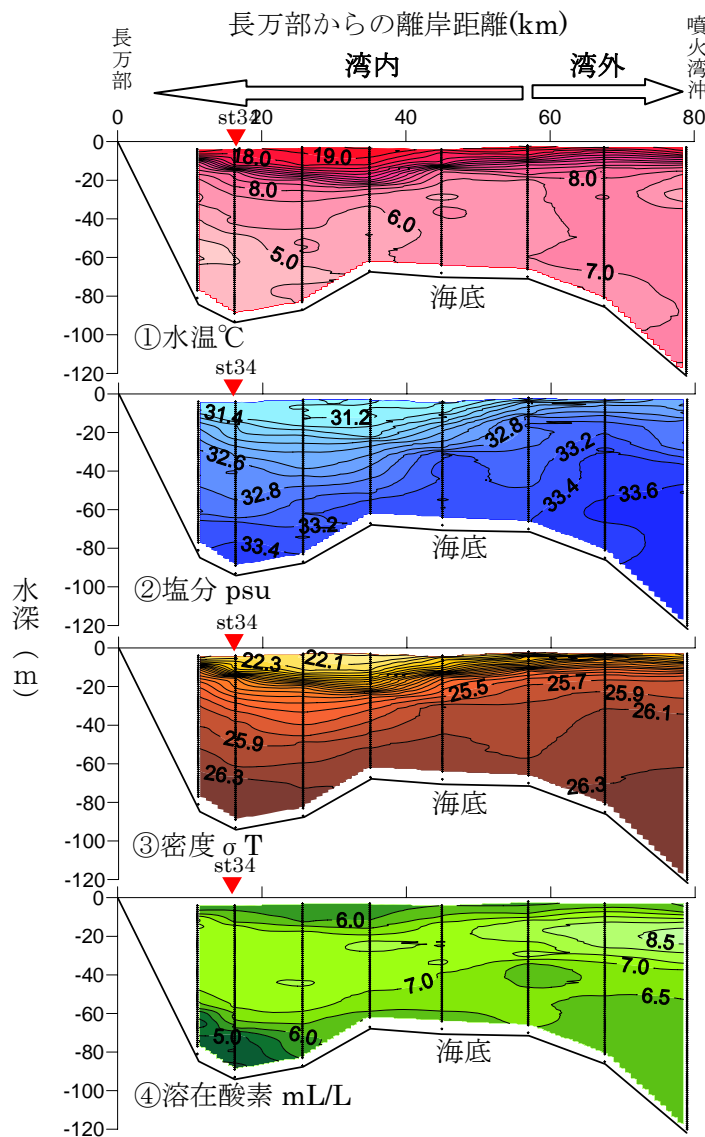


図3 長万部沖の離岸距離と水深ごとの水温・塩分・密度・溶存酸素の分布(平成22年7月5-6日)

[環境情報]

ナギが続いたため、深度12~13mと浅い所に躍層があります(図2)。躍層付近は環境変化が激しく、振動も伝えやすい性質を持っています。躍層を避けてホタテを垂下してください。

湾内の深部には溶存酸素の低い水塊があります(図3-④, 図4-②)。この水塊は、先月よりも低酸素化がやや進み、最低酸素値は貧酸素水の基準である3mL/Lに近くなっています。最も低酸素な領域は6月には長万部沖にありましたが7月には森沖へ移動していました(図4-①, ②)。

湾外には、高塩分(33.6)の津軽暖流水が分布しています(図3-②)。まだ、湾内には流入していませんが、今後ゆっくり流入すれば、深部の低酸素状態を解消してくれると期待されます。一方、大きなシケによって急激に津軽暖流水が流入すると、低酸素水塊を持ち上げ、昨年のように稚貝をへい死させる危険があります。低酸素水塊は、噴火湾の躍層深度が浅いとホタテの垂下深度まで持ち上げられる可能性が高いと考えられています。十分、注意して下さい。

次回の金星丸による環境調査は9月に予定されています。

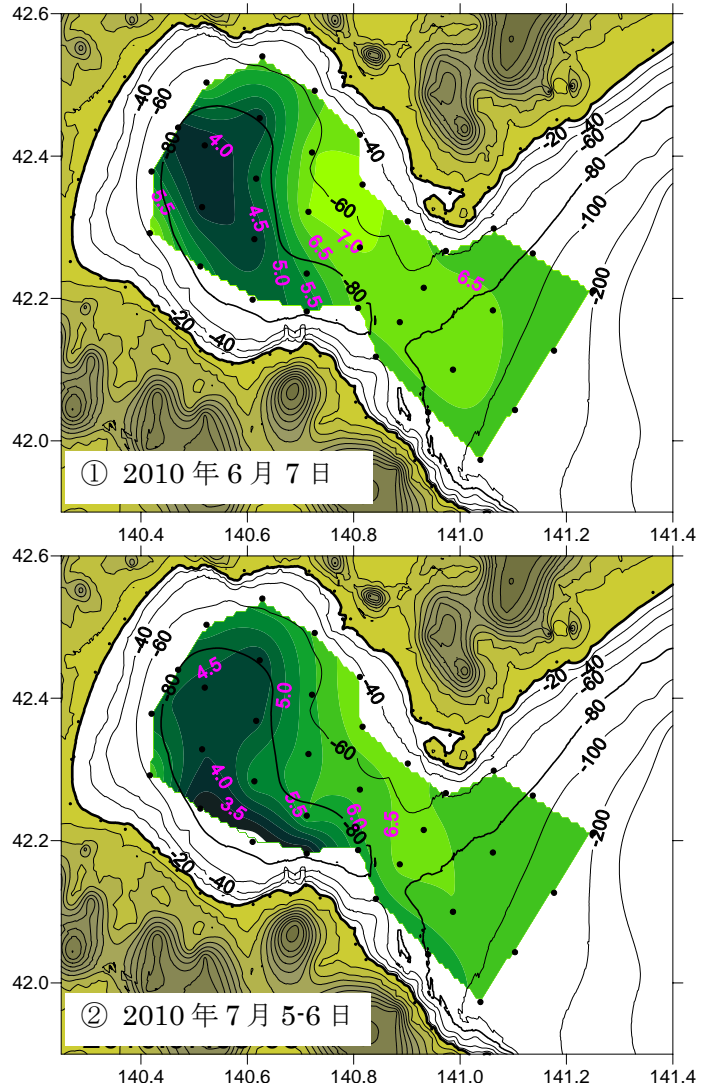


図4 海底上5mの溶存酸素量(mL/L)の分布(緑領域とピンク数字).平成22年6月7日(上図)、平成22年7月5-6日(下図).